

# 2019年3月期 第2四半期決算説明会資料

(2871)

株式会社ニチレイ

【お問合せ先】

財務IR部 IRグループ

TEL: 03-3248-2167

URL: <https://www.nichirei.co.jp/ir/index.html>

## <連結グループ>

下期に改善を見込み、通期計画達成へ 1

中期経営計画の進捗（成果と課題） 2

中期経営計画の進捗（設備投資） 3

中期経営計画の進捗（設備投資-加工食品事業） 4

## <加工食品事業>

主力商品の拡販や関係会社の業績改善を進め、通期計画達成へ 5

下期は関係会社の業績改善が寄与 6

## <低温物流事業>

国内・海外ともに計画通り進捗し、通期計画達成へ 7

地域保管は東京港湾地区での収益安定を図る 8

## <水産・畜産事業>

水産は回復基調、畜産は安定的に利益を確保 9

## <参考資料>

営業利益の増減要因（18/3 - 19/3） 10

営業外収支・特別損益の変動要因 11

各中計期間の業績の推移 12

データ集 13~16

注：当資料のグラフ・表などで表示されている数値は、別途断り書きがある場合を除き、金額単位表示未満は四捨五入し、一部で端数調整のため切り上げ・切り捨てを行っている。

単位：億円

	第2四半期（累計）				第3・4四半期（累計）				通期			
	実績	前年同期間比		7/31発表の 通期見込に 対する進捗率	見込	前年同期間比		見込	前年同期間比		前回見込比	
		増減	率			増減	率		増減	率	前回見込	増減
加工食品	1,144	5	0%	50%	1,146	78	7%	2,290	83	4%	2,290	0
水産	352	-6	-2%	47%	398	41	11%	750	35	5%	750	0
畜産	447	9	2%	49%	473	7	2%	920	16	2%	920	0
低温物流	999	52	5%	50%	1,001	-3	-0%	2,000	49	3%	2,000	0
不動産	24	-0	-1%	49%	24	-1	-2%	48	-1	-1%	48	0
その他	26	3	15%	45%	31	0	1%	57	4	7%	57	0
調整額	-102	-1	-	-	-103	-5	-	-205	-6	-	-205	0
<b>売上高合計</b>	<b>2,890</b>	62	2%	49%	<b>2,970</b>	117	4%	<b>5,860</b>	180	3%	5,860	0
加工食品	65	-21	-24%	43%	85	25	41%	150	4	3%	150	0
水産	1	-1	-44%	17%	6	5	614%	7	4	129%	7	0
畜産	7	0	4%	50%	7	1	12%	14	1	8%	14	0
低温物流	55	-2	-4%	48%	60	4	8%	115	2	2%	115	0
不動産	11	0	0%	49%	11	0	4%	22	0	2%	22	0
その他	2	-1	-35%	29%	6	1	25%	8	-0	-1%	8	0
調整額	-3	0	-	-	-3	-1	-	-6	-1	-	-6	0
<b>営業利益合計</b>	<b>138</b>	-25	-15%	44%	<b>172</b>	36	26%	<b>310</b>	11	4%	310	0
<b>経常利益</b>	<b>140</b>	-24	-15%	45%	<b>170</b>	27	19%	<b>310</b>	3	1%	310	0
<b>当期純利益</b>	<b>94</b>	-8	-7%	48%	<b>104</b>	15	16%	<b>198</b>	7	4%	198	0

為替レート	2018年度	2018年度	2017年度
	通期見込	上期実績	上期実績
米ドル/円	108.00	108.69	112.37
ユーロ/円	130.00	131.64	121.63
バーツ/円	3.45	3.43	3.24

注：①当期純利益は「親会社株主に帰属する当期純利益」を指しております。  
②為替レートの実績は1月～6月の期中平均で算出しております。

## 1. (上期)

- ①売上高は低温物流や畜産が全体を牽引し増収。
- ②営業利益は加工食品の減益により全体で15%の減益となったが、そのほかの事業は計画線上で推移。

## 2. (通期)

加工食品や低温物流の伸長により、通期計画達成を図る。

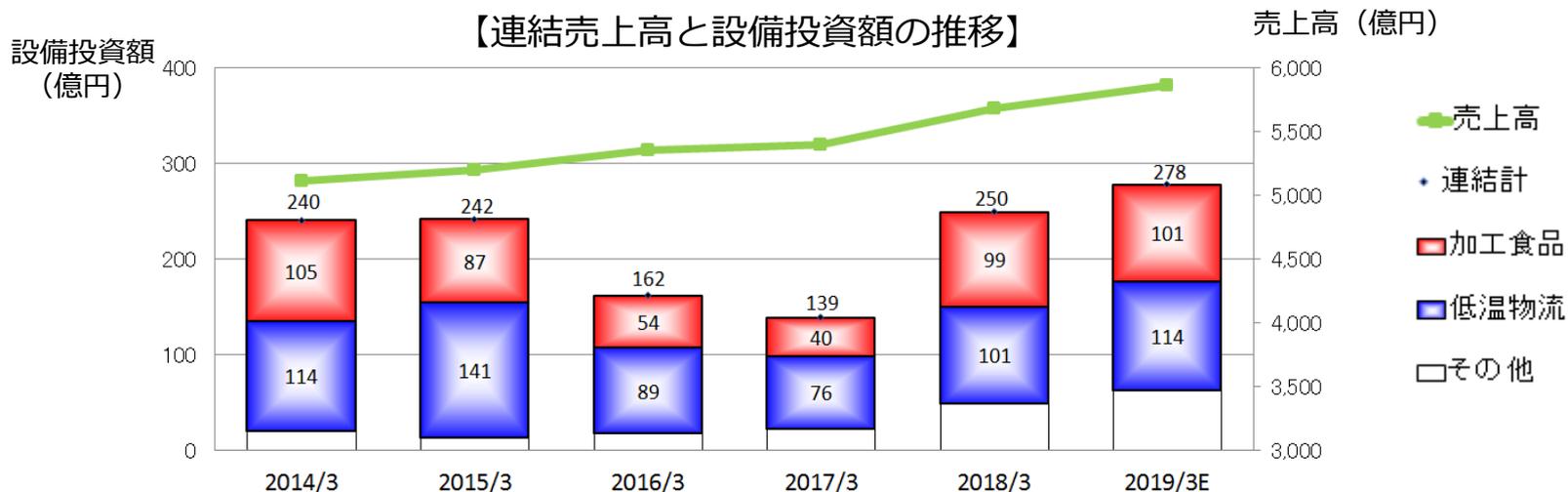
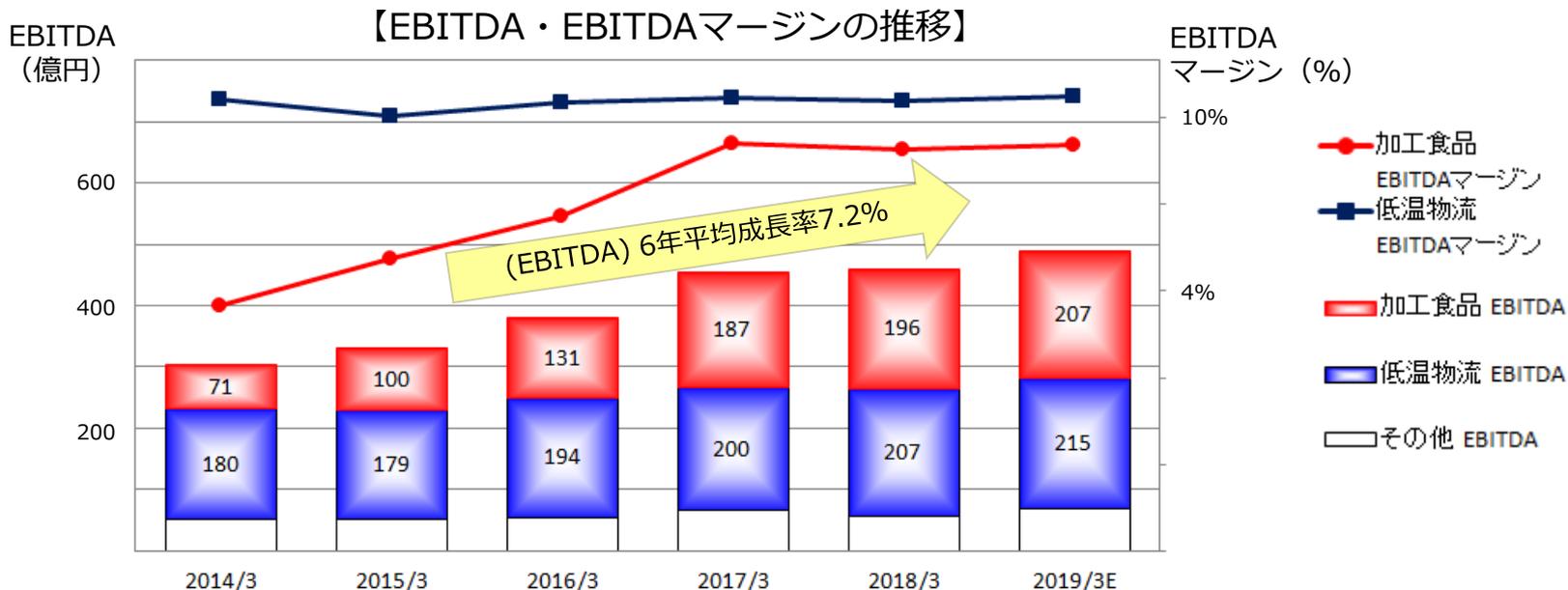
事業	現中計の成果	今後の課題
<b>グループ全体</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・売上拡大などによりコスト増加を吸収しEBITDAが拡大</li> <li>・競争力強化に向けた主力事業への集中投資を継続</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業価値向上に向けた長期的な成長戦略の遂行</li> </ul>
<b>加工食品</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭用でのカテゴリNo.1戦略の推進や業務用での中食向け強化などにより主力商品の販売が拡大</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産体制の強化と一層の効率化</li> <li>・タイにおける環境変化（為替、副産物価格）への対応</li> <li>・北米事業の成長に向けた取組み</li> </ul>
<b>低温物流</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大都市圏での集荷増や運送収支の改善などにより安定成長を実現</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・労働力不足によるコスト増加への対応</li> <li>・海外事業の拡大</li> </ul>

# <連結グループ> 中期経営計画の進捗（設備投資）

おいしい瞬間を届けたい

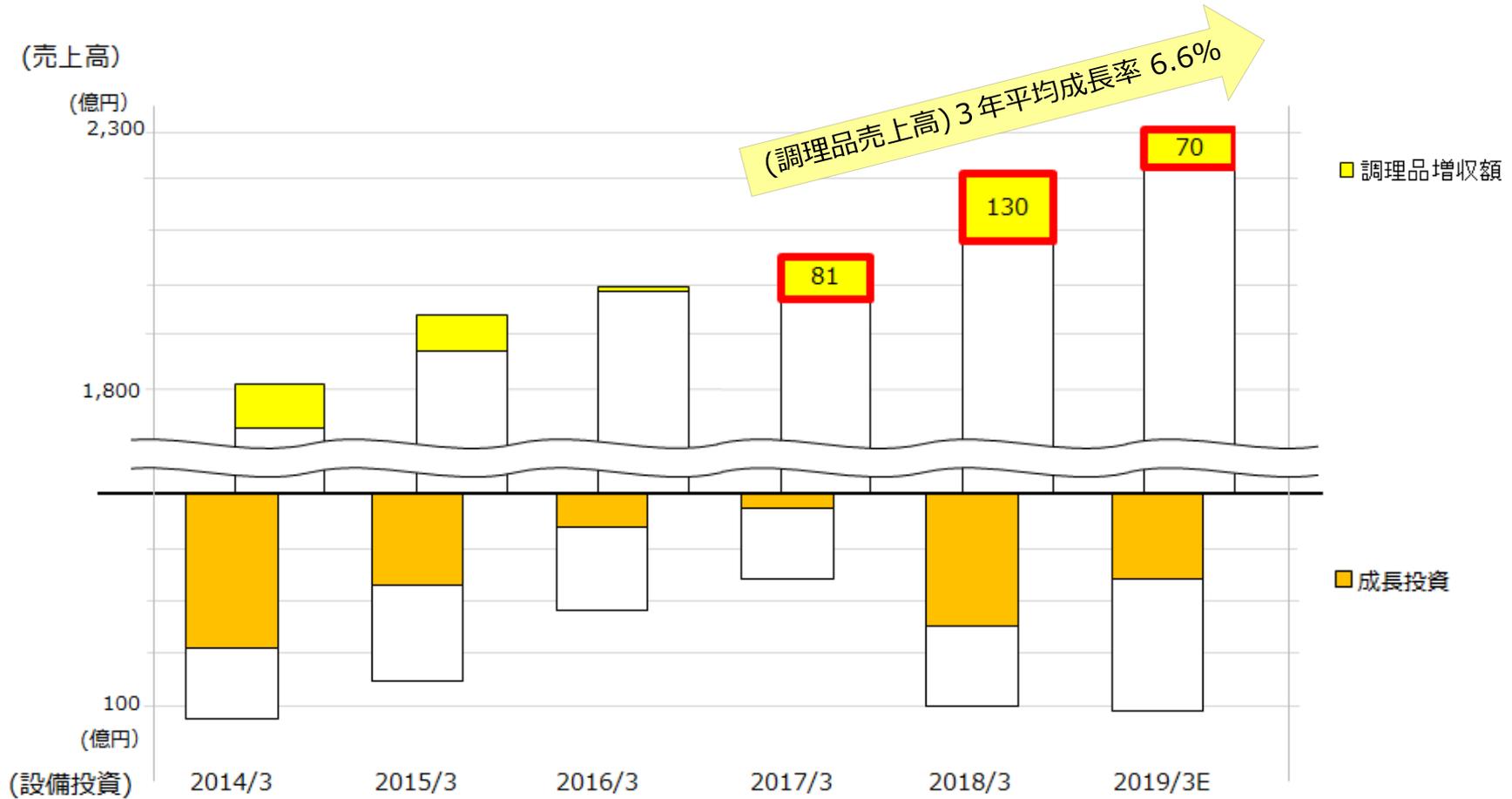


➤ 「強い事業をより強く」、コア事業への集中投資により競争力を強化し持続的な利益成長へ。



- 需要の創出・拡大を見据えて生産能力を増強し、販売拡大・再投資の好サイクルを展開
- 今後も成長投資を継続し、投資効果の実現を図る

### 【加工食品事業の売上高推移と設備投資】



# 加工食品事業



ほんの少しの、  
その差にこだわる。



株式会社ニッスイフーズ



単位：億円

		第2四半期（累計）				第3・4四半期（累計）			通期				
		実績	前年同期間比		7/31発表の 通期見込に 対する進捗率	見込	前年同期間比		見込	前年同期間比		前回見込比	
			増減	率			増減	率		増減	率	前回見込	増減
加工食品	売上高 計	1,144	5	0%	50%	1,146	78	7%	2,290	83	4%	2,290	0
	家庭用調理品	296	22	8%	49%	317	19	6%	613	41	7%	598	15
	業務用調理品	491	-20	-4%	48%	511	48	10%	1,002	29	3%	1,017	-15
	農産加工品	102	4	5%	51%	98	2	2%	200	6	3%	200	0
	海外	160	1	0%	51%	151	5	3%	311	6	2%	311	0
	その他	95	-2	-2%	58%	69	4	5%	164	1	1%	164	0
	営業利益	65	-21	-24%	43%	85	25	41%	150	4	3%	150	0

## 1.（上期）

- ①家庭用調理品は、チキン加工品や米飯類の販売が引き続き伸長し増収。
- ②業務用調理品は、前期の大手ユーザー向け取扱い拡大の反動により減収。
- ③営業利益は、パーツ高やタイにおける鶏副産物の販売価格下落が影響し減益。

## 2.（通期）

- ①家庭用調理品の販売は引き続き好調を維持。
- ②業務用調理品は、前期は上期偏重の売上げが今期は平準化し、下期は前年同期比で大きく伸長し増収。
- ③営業利益は拡販や生産性改善に加え、関係会社の業績改善により通期計画達成を図る。

## 【下期改善の主な施策】

- ①家庭用調理品は、主力商品の「本格炒め炒飯」や「特から」を中心に、さらなる伸長を見込む。
- ②商品ミックスや生産性の改善、マーケティング費用の効果的な使用により利益率を改善。
- ③タイでは、日本向け製品の比率を高めることや、鶏副産物の販売価格が持ち直し傾向にあることなどにより、海外関係会社の大幅な業績改善を見込む。

### (営業利益)

	上期	下期	通期
18/3期	85	61	146
19/3期	65	85	150
前期比	-20	24	4

### (主な増減要因)

	19/3下期 (E)	
	対上期比	対前年下期比※2
①増収効果※1	2	15
②生産性改善 (商品ミックス改善などを含む)	8	5
③関係会社の業績影響額	10	5
合計	20	24

※1 調理品以外を含む。

※2 「対前年下期比」欄は主な項目を表示しておりますので、詳細につきましては10ページの「営業利益の増減要因」をご参照ください。

# 低温物流事業



選ばれつつける仕事。

単位：億円

	実績	第2四半期（累計）			第3・4四半期（累計）			通期				
		前年同期間比		7/31発表の 通期見込に 対する進捗率	見込	前年同期間比		見込	前年同期間比		前回見込比	
		増減	率			増減	率		増減	率	前回見込	増減
<b>売上高計</b>	<b>999</b>	52	5%	50%	<b>1,001</b>	-3	-0%	<b>2,000</b>	49	3%	2,000	0
国内小計	797	23	3%	51%	770	2	0%	1,567	25	2%	1,563	4
物流ネットワーク	465	14	3%	51%	452	-2	-1%	917	12	1%	914	3
地域保管	331	9	3%	51%	319	4	1%	650	13	2%	649	1
海外	189	26	16%	51%	201	11	6%	390	37	10%	374	16
その他・共通	13	3	29%	21%	30	-15	-34%	43	-12	-22%	63	-20
<b>営業利益計</b>	<b>55</b>	-2	-4%	48%	<b>60</b>	4	8%	<b>115</b>	2	2%	115	0
国内小計	53	-4	-7%	50%	52	6	12%	105	2	2%	105	0
物流ネットワーク	20	2	8%	54%	17	-1	-4%	37	1	2%	37	0
地域保管	32	-5	-14%	48%	36	6	22%	68	1	2%	68	0
海外	5	1	25%	48%	10	4	64%	15	5	48%	11	4
その他・共通	-3	1	-	-	-2	-5	-	-5	-4	-	-1	-4

1. (国内)

- ① 上期はTC（通過型センター）の取扱いが拡大したことや、保管が堅調に推移し増収となったが、荷役作業料の上昇や再保管の増加など一時的なコスト増加により、利益は前期を下回る。
- ② 下期は自然災害の影響はあるが、大都市圏を中心に地方エリアにおいても保管需要は堅調に推移し、通期で増収・増益を確保。

2. (海外)

- ① 上期はチキン在庫減少の影響が残ったものの、好調な輸配送業務や果汁の取扱い物量の拡大が寄与し増収・増益。
- ② 下期も輸配送や果汁保管は好調を持続するほか、チキンの代替商材など取扱い貨物の多様化を進め在庫水準の底上げを図る。

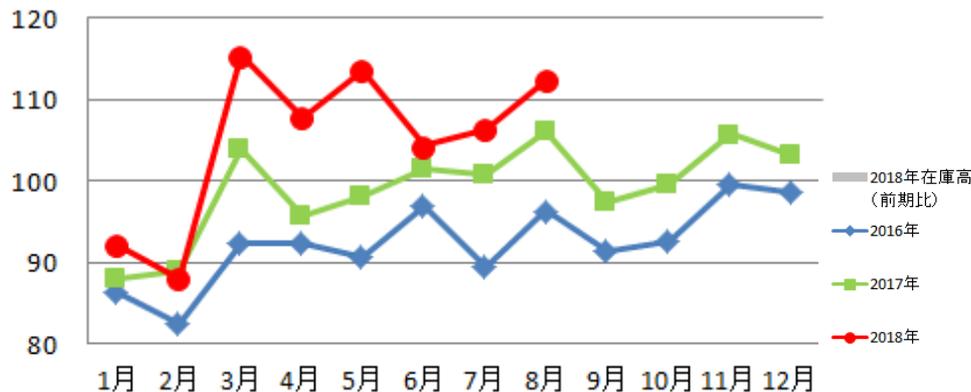
# 地域保管は東京港湾地区での収益安定を図る

## 【東京港湾地区の状況】

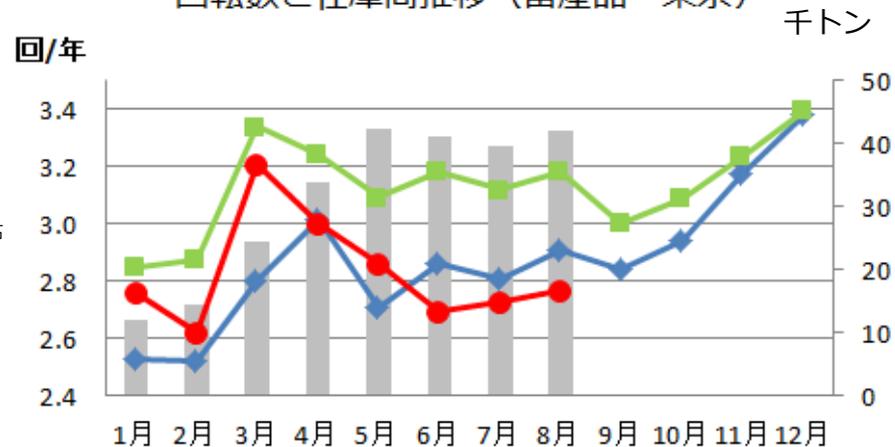
- 入庫量は増加する一方回転数は低下し、在庫水準は高止まり。
- 庫腹が逼迫するなか、業界各社は法規制への対応により、貨物受入れを峻別する動きも。

(東京圏の庫腹状況 (業界) )

### 千トン 入庫量推移 (畜産品・東京)



### 回/年 回転数と在庫高推移 (畜産品・東京)

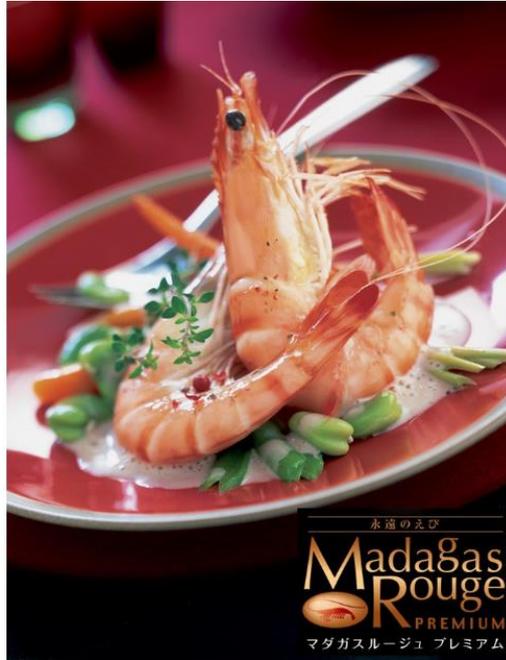


## 【当社グループの対応】

- 東京港湾地区は、特に畜産品の保管を強みとして、下期は、適正料金の收受や再保管先の集約、高回転商材の取り込みなどを進め収益改善へ。
- 今後も保管貨物の最適配置を推進することなどにより、エリア全体の収益拡大を図る。

# 水産・畜産事業

海と大地と人をつなぐ



単位：億円

		第2四半期（累計）				第3・4四半期（累計）				通期			
		実績	前年同期間比		7/31発表の 通期見込に 対する進捗率	見込	前年同期間比		見込	前年同期間比		前回見込比	
			増減	率			増減	率		増減	率	前回見込	増減
水産	売上高	352	-6	-2%	47%	398	41	11%	750	35	5%	750	0
	営業利益	1	-1	-44%	17%	6	5	614%	7	4	129%	7	0
畜産	売上高	447	9	2%	49%	473	7	2%	920	16	2%	920	0
	営業利益	7	0	4%	50%	7	1	12%	14	1	8%	14	0

## 1. (水産)

- ① 上期はタコや魚卵類の調達コスト上昇による利益面での影響があったが、エビや貝類の利益率は改善。
- ② 下期はエビの回復が顕在化することに加え、最需要期である第3四半期に向けて主力商材の販売を強化し利益確保を図る。

## 2. (畜産)

- ① 上期は豚肉の取り扱いが伸長したことや、惣菜弁当向けに加工品の販売が拡大し増収。
- ② 下期は引き続き中食・外食向け加工品の販売に注力するとともに、オメガバランスチキン（あまに鶏）など新規商材の取り扱い拡大を図る。

# 参考資料

---

# 営業利益の増減要因（18/3 - 19/3）

おいしい瞬間を届けたい



## <加工食品事業>

単位：億円

	第2四半期 (累計)	第3・4四半期 (累計)	通期	
	実績	見込	見込	前回見込比
<b>18/3期 営業利益</b>	<b>85</b>	<b>61</b>	<b>146</b>	<b>-</b>
<b>増益要因</b>	<b>7</b>	<b>22</b>	<b>29</b>	<b>3</b>
増収効果	2	15	17	0
原材料・仕入コストの低減	3	2	5	0
生産性改善	2	5	7	3
<b>減益要因</b>	<b>-27</b>	<b>2</b>	<b>-25</b>	<b>-3</b>
関係会社の業績影響額	-18	5	-13	-6
減価償却費増	-4	-3	-7	0
広告宣伝費の増減	-1	1	0	3
その他	-4	-1	-5	0
<b>19/3期 営業利益見込</b>	<b>65</b>	<b>85</b>	<b>150</b>	<b>0</b>

## <低温物流事業>

単位：億円

	第2四半期 (累計)	第3・4四半期 (累計)	通期	
	実績	見込	見込	前回見込比
<b>18/3期 営業利益</b>	<b>57</b>	<b>56</b>	<b>113</b>	<b>-</b>
<b>増益要因</b>	<b>7</b>	<b>10</b>	<b>17</b>	<b>2</b>
集荷増による業績影響額	3	2	5	0
業務改善効果	2	4	6	1
運送効率化	1	2	3	0
その他	1	2	3	1
<b>減益要因</b>	<b>-9</b>	<b>-6</b>	<b>-15</b>	<b>-2</b>
B C P 関連費用など	-2	-2	-4	1
輸配送コスト増（純額）	-2	-1	-3	0
電力コスト増（純額）	-2	-1	-3	0
作業委託コスト増（純額）	-3	-1	-4	-2
災害による業績影響額	0	-1	-1	-1
<b>19/3期 営業利益見込</b>	<b>55</b>	<b>60</b>	<b>115</b>	<b>0</b>

# 営業外収支・特別損益の変動要因

おいしい瞬間を届けたい



単位：億円（未満切り捨て）

プラス表示は利益を示す	第2四半期累計			通期		
	17/9	18/9	増減	18/3	19/3E	増減
【営業外収支】 (主要項目)	1	2	0	7	△0	△7
金融収支	0	0	0	△0	△2	△1
持分法による投資損益	0	2	1	7	2	△4
【特別損益】 (主要項目)	△6	△1	4	△14	△9	4
固定資産売却益	0	1	1	0	1	1
固定資産売却損・除却損	△5	△2	2	△11	△11	0
減損損失	△0	△0	△0	△0	△0	0

# 各中計期間の業績の推移

おいしい瞬間を届けたい



単位：億円

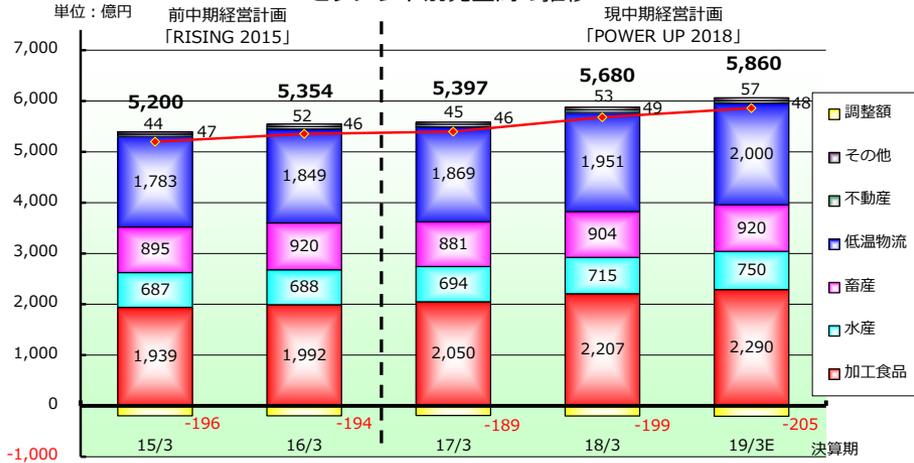
	中計 (07~09年度)			energy 2012 (10-12年度)			RISING 2015 (13-15年度)			POWER UP 2018 (16-18年度)		
	08/3	09/3	10/3	11/3	12/3	13/3	14/3	15/3	16/3	17/3	18/3	19/3E
加工食品事業	1,750	1,740	1,621	1,619	1,742	1,616	1,807	1,939	1,992	2,050	2,207	2,290
水産事業	747	761	672	668	657	637	686	687	688	694	715	750
畜産事業	839	925	776	783	756	755	801	895	920	881	904	920
低温物流事業	1,387	1,423	1,390	1,394	1,495	1,564	1,684	1,783	1,849	1,869	1,951	2,000
不動産事業	75	74	70	66	49	47	50	47	46	46	49	48
その他の事業	63	66	69	62	60	58	37	44	52	45	53	57
調整額	△ 226	△ 244	△ 217	△ 215	△ 210	△ 200	△ 191	△ 196	△ 194	△ 189	△ 199	△ 205
<b>売上高合計</b>	<b>4,636</b>	<b>4,745</b>	<b>4,381</b>	<b>4,378</b>	<b>4,549</b>	<b>4,477</b>	<b>4,874</b>	<b>5,200</b>	<b>5,354</b>	<b>5,397</b>	<b>5,680</b>	<b>5,860</b>
加工食品事業	41	20	26	46	52	60	34	54	80	139	146	150
水産事業	△ 5	3	9	6	2	1	4	2	7	8	3	7
畜産事業	6	△ 0	7	4	5	5	1	4	4	16	13	14
低温物流事業	85	82	79	73	74	86	89	87	100	106	113	115
不動産事業	43	40	37	36	24	23	24	21	22	21	22	22
その他の事業	2	2	4	4	5	4	4	6	9	6	8	8
調整額	1	4	7	△ 2	0	0	1	0	△ 5	△ 3	△ 5	△ 6
<b>営業利益合計</b>	<b>174</b>	<b>151</b>	<b>168</b>	<b>167</b>	<b>162</b>	<b>179</b>	<b>158</b>	<b>174</b>	<b>216</b>	<b>293</b>	<b>299</b>	<b>310</b>
<b>経常利益</b>	<b>169</b>	<b>142</b>	<b>155</b>	<b>161</b>	<b>153</b>	<b>172</b>	<b>144</b>	<b>169</b>	<b>214</b>	<b>291</b>	<b>307</b>	<b>310</b>
<b>親会社株主に帰属する当期純利益</b>	<b>96</b>	<b>60</b>	<b>91</b>	<b>40</b>	<b>79</b>	<b>98</b>	<b>89</b>	<b>95</b>	<b>135</b>	<b>188</b>	<b>191</b>	<b>198</b>
<b>設備投資等 (リース資産を含む)</b>	-	149	244	221	122	132	240	242	162	139	250	278
(リース資産を除く)	78	128	180	181	94	107	212	198	132	103	223	231
<b>有利子負債 (リース債務を含む)</b>	-	1,105	858	970	978	969	1,061	1,077	947	898	977	
(リース債務を除く)	661	879	609	725	748	754	857	873	755	709	798	
<b>D/Eレシオ (倍)</b>	-	1.0	0.7	0.8	0.8	0.8	0.8	0.7	0.6	0.5	0.6	
(リース債務を除く)	0.6	0.8	0.5	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.5	0.4	0.5	
<b>自己資本比率 (%)</b>	<b>44.3</b>	<b>38.6</b>	<b>43.1</b>	<b>40.4</b>	<b>40.2</b>	<b>41.3</b>	<b>41.9</b>	<b>43.0</b>	<b>44.4</b>	<b>46.0</b>	<b>44.1</b>	
<b>ROE (自己資本利益率) (%)</b>	<b>8.5</b>	<b>5.3</b>	<b>7.9</b>	<b>3.4</b>	<b>6.8</b>	<b>8.2</b>	<b>6.9</b>	<b>6.8</b>	<b>9.1</b>	<b>12.1</b>	<b>11.9</b>	

注：①リース会計基準の変更に伴い、09/3よりリース資産、リース債務をオンバランス化

②設備投資等には無形固定資産を含む

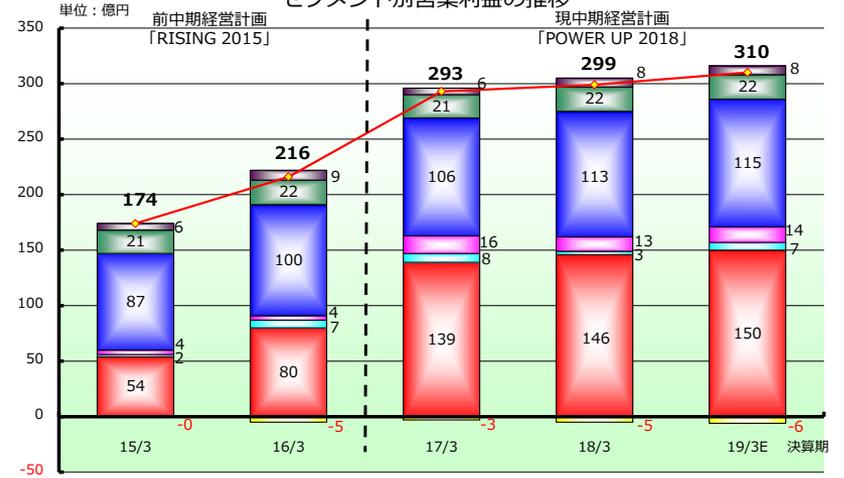
③13/3より、加工食品の売上高は、売上計上基準の変更（従来、販売費で計上していたものの一部を売上高から控除）による影響を反映

### セグメント別売上高の推移



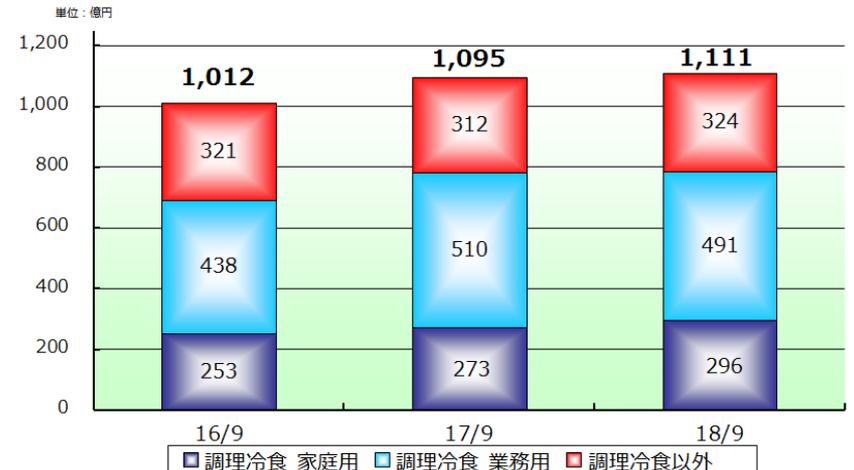
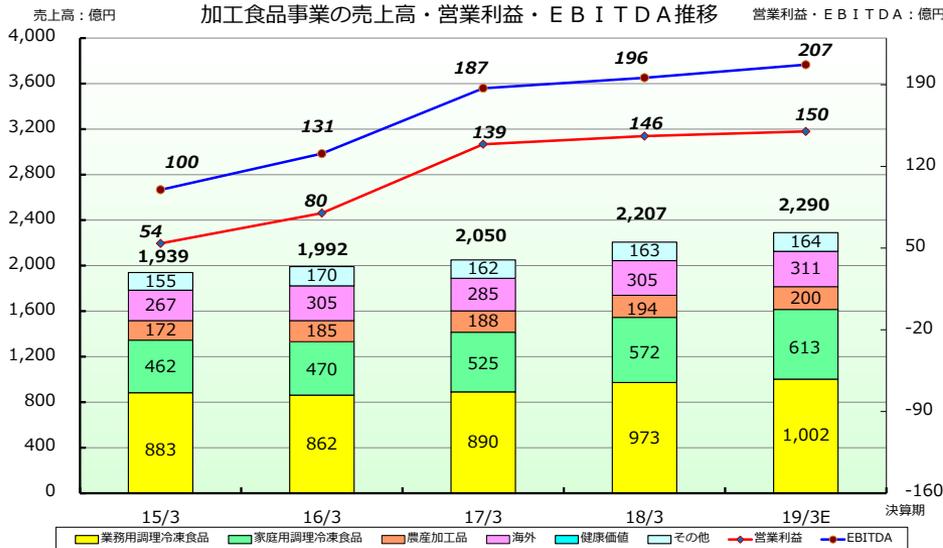
注：加工食品事業の売上計上基準変更（従来、販売費で計上していたものの一部を売上高から控除）による影響を反映

### セグメント別営業利益の推移



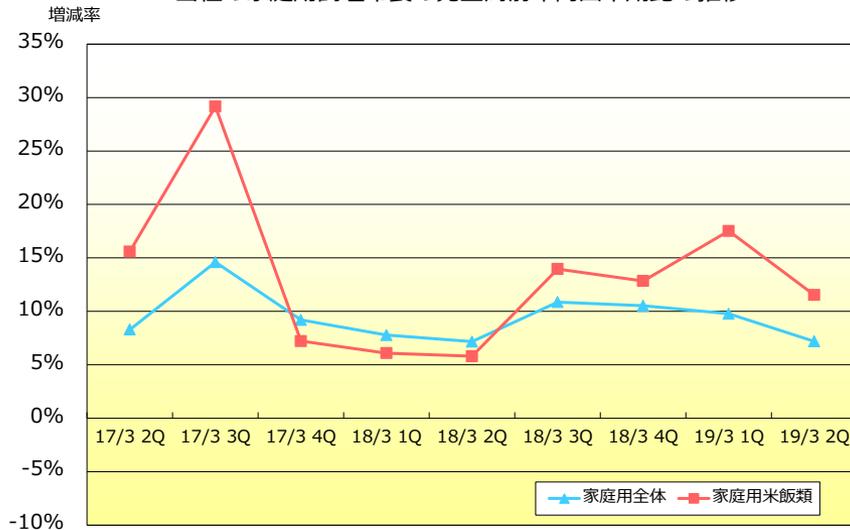
### 冷凍食品売上高の推移

（日本冷凍食品協会定義にもとづき、加工食品のほか水産畜産の売上も含む）

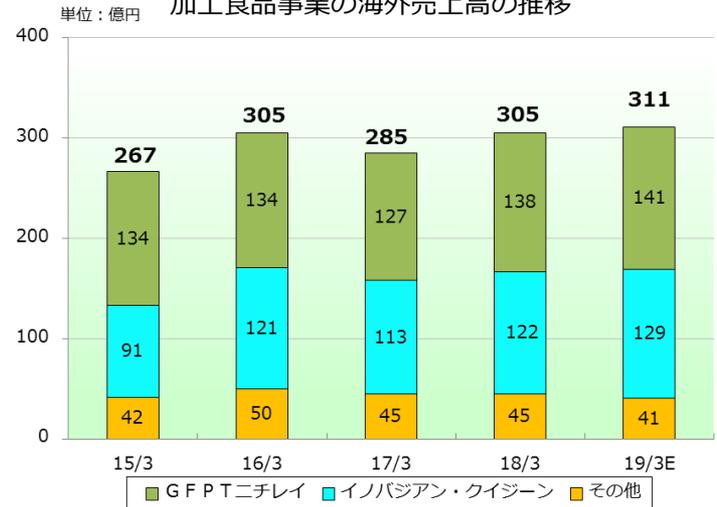


注：売上計上基準の変更（従来、販売費で計上していたものの一部を売上高から控除）による影響を反映

当社の家庭用調理冷蔵の売上高前年同四半期比の推移

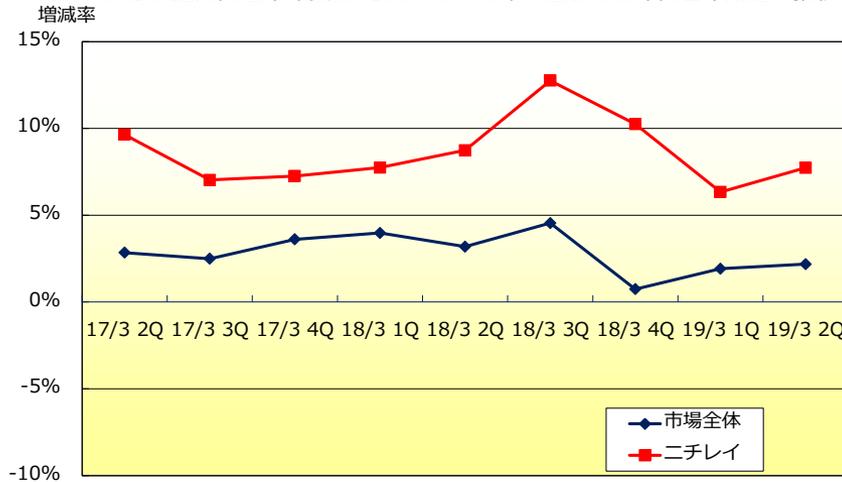


加工食品事業の海外売上高の推移

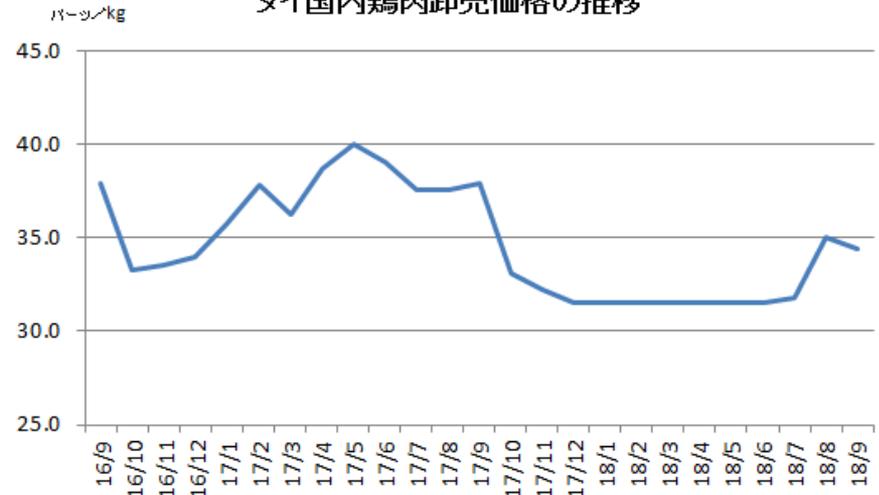


注：①GFPTニチレイの売上高は欧州向けとタイ国内向けの合計  
 ②イノバジアンは17/3から会計整理変更（販売費で計上していた費用の一部を売上高から控除）後の数値で表示

SCI 家庭用調理冷凍食品 100人当たり購入金額の前年同四半期比の推移



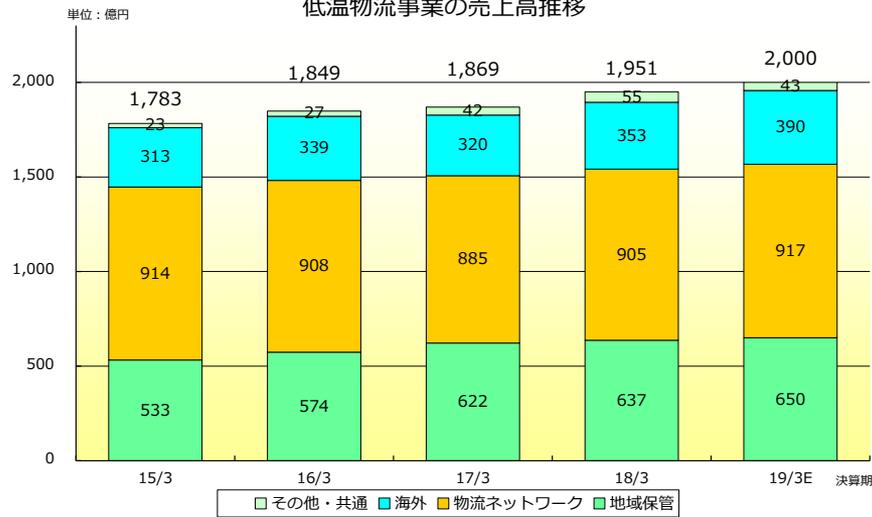
タイ国内鶏肉卸売価格の推移



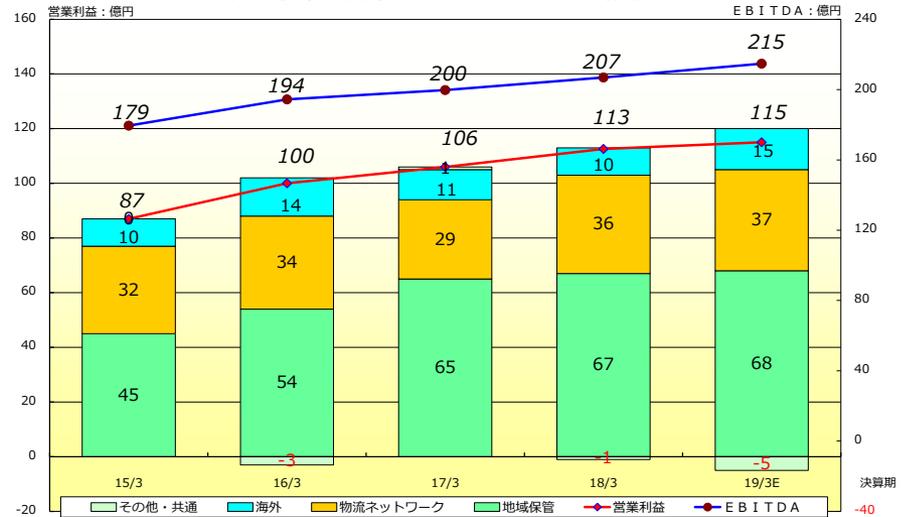
出典：インテージSCI（冷凍調理 100人当たり購入金額の前年同四半期比。購入ルート=生協店舗を含む）

出典：タイ商務省発表のデータを当社が加工

低温物流事業の売上高推移

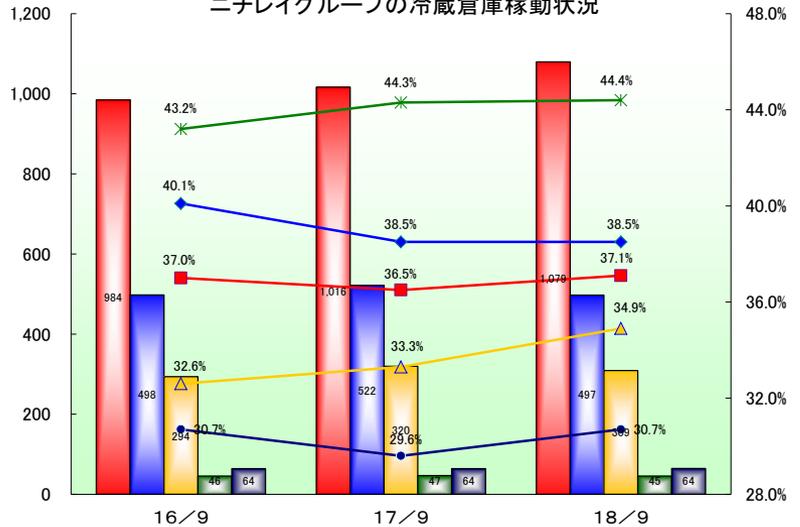


低温物流事業の営業利益・EBITDA推移



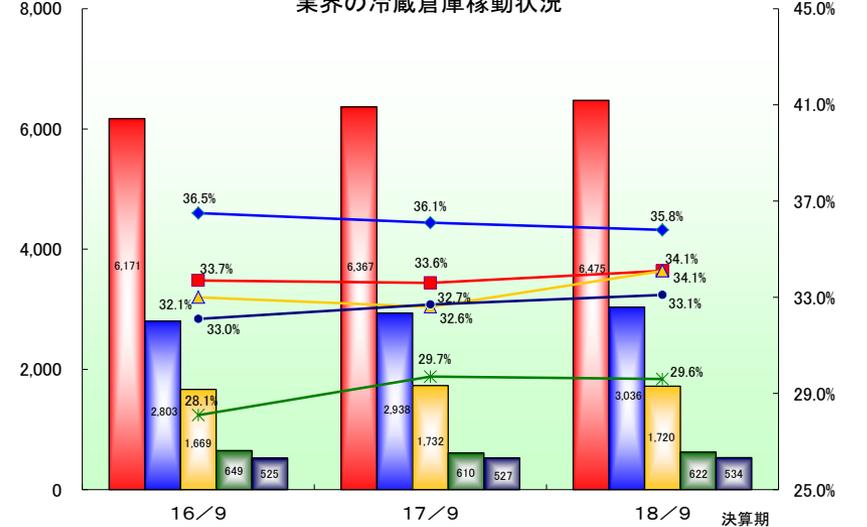
一般保管入庫数量：千屯

ニチレイグループの冷蔵倉庫稼働状況



一般保管入庫数量：千屯

業界の冷蔵倉庫稼働状況



注：在庫率とは冷蔵庫内の全スペースにおいて貨物が占める割合を指す。スペースには通路や作業空間などの荷物が置けない空間が通常半分程度含まれる

## 【国内】

### 冷蔵倉庫業界収容容積国内シェア上位20社

(日本冷蔵倉庫協会資料を当社で加工)

(2018年4月現在)

順位	社名・グループ名	能力 万ト	17/4比 能力増減	能力 シェア	主たる営業地域
1	ニチレイグループ	151	4	10%	全国
2	横浜冷凍株式会社	86	1	6%	全国
3	マルハグループ	66	2	4%	全国
4	東洋水産グループ	49	1	3%	全国
5	C & F ロジホールディングス	48	0	3%	全国
6	日本水産グループ	42	1	3%	全国
7	株式会社松岡	31	4	2%	関東、関西、九州
8	株式会社キユーソー流通システム	26	0	2%	全国
9	鴻池運輸株式会社	25	0	2%	全国
10	五十嵐冷蔵株式会社	24	2	2%	関東
11	二葉グループ	23	1	2%	関東
12	日本物流センター株式会社	17	0	1%	関東、関西
13	兵食グループ	16	0	1%	関西
14	株式会社ホウスイ	16	0	1%	関東
15	第一倉庫冷蔵株式会社	16	0	1%	関東
16	藤林グループ	16	0	1%	関西、九州
17	株式会社ランテック	14	4	1%	関西
18	寶船冷蔵株式会社	13	-1	1%	全国
19	山手冷蔵株式会社	11	1	1%	関東
20	株式会社上組	11	0	1%	全国
	その他	807	9	54%	
	合計	1,506	29	100%	

注：日本冷蔵倉庫協会に加盟していない非会員のデータも含めて作成

## 【海外】

### 冷蔵倉庫業界設備能力世界シェア上位10社

(世界冷蔵倉庫協会資料を当社で加工)

(2018年5月現在)

順位	社名・グループ名	能力 万ト	主たる事業展開国
1	Americold Logistics	1,058	米国など
2	Lineage Logistics	869	米国など
3	Swire Cold Storage	406	米国など
4	AGRO Merchants Group, LLC	298	米国など
5	Nichirei Logistics Group, Inc.	197	日本など
6	Kloosterboer	187	オランダなど
7	NewCold Coöperatief U.A.	159	オランダなど
8	VersaCold Logistics Services	150	カナダ
9	Interstate Warehousing, Inc.	114	米国
10	Frialsa Frigorificos S.A. De C.V.	110	メキシコ

出典：I A R W (世界冷蔵倉庫協会) "Global Top 25 List"

### 冷蔵倉庫業界設備能力欧州シェア上位10社

(世界冷蔵倉庫協会資料を当社で加工)

(2018年4月現在)

順位	社名・グループ名	能力 万ト	主たる事業展開国
1	Kloosterboer	180	オランダなど
2	AGRO Merchants Group, LLC	121	オランダなど
3	Lineage Logistics	108	オランダなど
4	NewCold Cooperatief U.A.	87	ドイツなど
5	Nichirei Logistics Group, Inc.	63	オランダなど
6	Gruppo Marconi Logistica Integrata	62	イタリア
7	Agri-Norcold A/S	40	デンマーク
8	Bring Frigo	36	スウェーデンなど
9	Claus Sørensen A/S	29	デンマーク
10	Stockhabo	26	ベルギー

出典：I A R W (世界冷蔵倉庫協会) "European Top 10 List"

## 当資料取扱い上のご注意

当資料に記されたニチレイの現在の計画・見通し・戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであります。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」その他これらの類義語を用いたものに限定されるものではありません。これらの情報は、現在において入手可能な情報から得られたニチレイの経営者の判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。このため、これらの業績見通しのみ全面的に依拠して投資判断されることは、お控えいただくようお願いいたします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常にニチレイが将来の見通しを見直すとは限りません。実際の業績に影響を与え得るリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます：

- ①ニチレイグループの事業活動を取り巻く経済情勢および業界環境
- ②米ドル・ユーロを中心とした為替レートの変動
- ③商品開発から原料調達、生産、販売まで一貫した品質保証体制確立の実現性
- ④新商品・新サービス開発の実現性
- ⑤成長戦略とローコスト構造の実現性
- ⑥ニチレイグループと他社とのアライアンス効果の実現性
- ⑦偶発事象の結果

など

ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。また、リスクや不確実な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響も含まれます。当資料は、あくまでニチレイをより深く理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするためのものではありません。